

令和4年度
教職課程
自己点検評価報告書

令和5年3月
西九州大学短期大学部

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	2
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	5
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	9
III	総合評価	13
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	14
V	現況基礎データ一覧	15

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名：西九州大学短期大学部

(2) 所在地：佐賀県佐賀市神園3丁目18-15

(3) 学生数及び教員数

①令和2年5月1日現在

学生数： 教職課程履修177名／学科全体179名

教員数： 教職課程専任教員9名／学科全体10名

②令和3年5月1日現在

学生数： 教職課程履修172名／学科全体173名

教員数： 教職課程専任教員9名／学科全体9名

2 特色

本学は、昭和38年(1963年)に創設者永原マツヨ理事長により「西九州大学短期大学部(旧佐賀短期大学)」として開設された。本学の教育理念として「世界文化の向上と人類福祉に寄与する人物の養成」を掲げて、人間教育を基本とした専門職業人の養成をおこなっている。幼児保育学科では、保育士資格を併修するカリキュラムを設定しており、就学前の乳幼児の発達の道筋を幅広く見通しながら学修することを通して、高度な幼保専門職業人を養成している。さらに、体験をとおした実践的教育を重要視しつつ、Society5.0の推進を踏まえてノートPCを必携化し、教育のDX化を推し進め、学生一人ひとりがこれからの社会要請に応えられる教職課程を展開している。また、学生一人ひとりが適正な進路を選択できるよう、教育実践現場の理解や実践的指導力の涵養を目指した人材養成をおこなっている。

Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

西九州大学短期大学部幼児保育学科は、建学の精神及び教育に関する基本方針にもとづき、4つの卒業認定・学位授与の方針（DP1. 幼児教育・保育に携わる為に必要な確かな知識や技能を修得している。DP2. 身に付けた知識や技能を活用し、保育に関する諸課題の解決に向けて取り組むことができる。DP3. 多様な人々と協働し、幼児教育・保育活動に主体的に臨む態度を身に付けている。DP4. 幼児教育・保育の専門職として、地域社会に貢献できる。）を定めている。これらの要件を達成できるように、3つの教育課程編成・実施の方針（CP1. 建学の精神「あすなろう」を中核として幅広い教養と豊かな人間性の育成を図る。CP2. 入学後、早い段階から実習を経験する等、理論と実践を繰り返しながら、自らを振り返り、関心・意欲を高め、さらに学びを深め、保育者としての基本的力量を形成できるよう科目を配置する。CP3. 「表現・音楽コース」と「心理・環境コース」の2コースを設け、個々の学生の関心を尊重し、支援するためのカリキュラムを編成する。）を設定している。さらにCP3を分岐させ、2つのコースの特色を示すコースのCP（表現・音楽コース CP：ダンスや音楽そして造形等、表現に関してより深く学び、その集大成として「実技発表会」を開催し、幅広い表現技術や創意工夫する力、課題解決力の向上を目指す。心理・環境コース CP：地域子育て支援に関する実践型授業「親子いきいき広場」を設け、他者に対する共感力・感受性を高めながら、保育現場における課題解決力の向上を目指す。）にもとづき、カリキュラムを編成している。幼児保育学科は、教職課程教育の目的・目標をこれに内包する。

〔長所・特色〕

本学では、上記の学科としての教育目標や目指す保育者像を踏まえ、学科独自の専門的能力要素にもとづいた学修成果の評価指標4項目（【態度・志向性】保育者としての素養、【知識・理解】子どもを理解し指導・援助する力、【技能・表現】保育を展開し評価する力、【行動・経験・創造的思考力】連携・協働する力）を設定し、各セメスターで学修成果を振り返るようルーブリック評価（学生の自己評価）を実施している。さらに、各年度で教員評価（成績評価）とルーブリック評価（学生自己評価）との関係性について分析し、学修成果の精度を高めている。その結果を最終年度に学生へ提示することで、目指す保育者像への到達度を明確にして、卒業時のディプロマサブリメントの発行へ繋げている。

〔取り組み上の課題〕

学修成果を測る指標の1つである汎用的能力要素は、他学科と共通の内容となり、その各能力要素については、各科目の到達目標との相関により妥当性が認められている。しかしながら、学科独自の専門的能力要素については、学科専門科目の到達目標との関連性について未検討のままである。そのため、今後は統計的手法を用いて各年度、 Semester毎の学生による自己評価と各科目の教員評価（成績評価）との関連性について分析し、専門的能力要素の妥当性について検討していくことが課題である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料1-1-1：西九州大学短期大学部 教育に関する基本方針 2021（R3）年度
- ・資料1-1-2：R3_学修成果の評価指標_専門的能力要素（幼児保育学科）
- ・資料1-1-3：キャンパスライフハンドブック（幼児保育学科の履修手引き）
- ・資料1-1-4：キャンパスライフハンドブック（学修の手引き）

基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

西九州大学短期大学部幼児保育学科では、教職課程認定基準を踏まえ、科目を担当するにあたり十分な教育研究業績を有する研究者教員と実務家教員をバランスよく配置している。また、事務局教務課では、学科の教育課程および教職課程を統括的に管理するため、学科教員と協働しながら教職課程を適切に運営していく体制を整えている。

教職課程の運営に関しては、全学組織「西九州大学短期大学部教職課程委員会」を設置している。当該委員会は必要に応じて教務委員会・FD委員会・幼児保育学科とも密接な関係を保つ体制を整え、教職課程の適正な運営を期すと同時に、学科の教育課程全般における教職課程の位置づけを定期的に点検し、DPにもとづく人材養成を保持する体制を構築している。さらに、教育実習やインターンシップ（自主実習）といった実践系科目の適正運営にあたっては、学科実習担当者会議において実施や指導に関わること、実習先との調整等を一体的に管理し、教職課程委員会や事務局教務課と情報共有を図っている。

教職課程をおこなう上での施設・設備については、講義室、演習室（子育て支援室、保育演習室）、表現スタジオ、ML（Music Laboratory）教室、美術工芸室、ゼミ室、調理実習室、体育館、コンピュータ演習室をキャンパスに設置し、各教室には、プロジェクターやスクリーンを配備し活用している。図書館は、令和4年度時点で蔵書数14,086点、視聴覚資料820点（教職課程に関連する書籍資料等）、かつ外部データベースや全国図書館の複写サービスを利用可能なネットワークに加盟し、各学科教職課程における教科・教職科目の学修に十分な資料を用意している。さらに、デジタルブックへのアクセスも可能となっており、

全学生がデジタル教材の利用も可能である。その ICT 教育環境については、マルチメディア機器、ソフトウェアが配備されたアクティブラーニング教室を1教室、短焦点プロジェクターを4機用意し、グループワークやプレゼンテーションに活用している。また、本学は入学時に携行可能なノート PC を必携化し、大学附置組織である情報システム室より入学生全員（および全授業担当者・職員）に大学発行のメールアドレス、学内ポータルサイトシステム、および大学が契約するマイクロソフト社「Office365 Education」の無償配布、キャンパス内には無線 LAN や印刷機器を配備して授業における情報通信技術の活用基盤を整備している。

〔長所・特色〕

本学科は、保育士資格を有する教員や実務家教員を採用し配置している。教職課程の質向上のために、GPA 分布、単位取得状況、免許資格取得状況、関連資格（幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級、レクリエーション・インストラクター資格、アートマネージャー（初級）、子ども発達支援士（基礎）資格等）の取得状況、また学生個々のポートフォリオ（履修状況や学修成果の獲得状況）等をもとに学科会議、教職課程委員会、教務委員会、教授会において定期的な点検、報告を実施している。

教職課程については、教職課程委員会において管理運営されている。教職課程委員会は、本学科の教員等で構成されており、教育内容や方法の組織的運営を統括している。また教学マネジメントにおいて大きな役割を担う FD 委員会が授業アンケート等を通して第三者的視点により教職課程の点検・評価をおこなっている。

〔取り組み上の課題〕

教職課程について、本学の組織上特に目立つ課題はないが、その成果等については、点検・報告で留まっている傾向がある。さらに、昨今の学生の学習状況（成績評価の格差、学習時間の低下）や学修成果の2極化（過小評価や過大評価の拡大）から、学科として定期的な点検と評価に留まらず、DP・CPにもとづく目指す教員像へつなげる学習環境（ヒトとモノ）の充実を図ることが必要である。さらに、「令和の日本型学校教育」の「幼児教育を担う人材の確保・資質及び専門性の向上」に示された内容を踏まえた上で、学科の目指す教員像をより具現化していくことが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-2-1：西九州大学短期大学部教職課程委員会規定
- ・資料1-2-2：西九州大学短期大学部幼稚園教育実習に関する履修内規
- ・データ：文部科学省「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）
https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_1-4.pdf

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

西九州大学短期大学部幼児保育学科は、大学の建学の精神にもとづいた入学者受け入れの方針（AP）を掲げ、将来、幼稚園や保育所、認定こども園で働きたい人材を募集している。そのため、HP や大学案内、学生募集要項等だけでなく、高校教諭対象学校説明会や進路ガイダンス、オープンキャンパス等を通じて、本学科が志願者に求める資質能力について公開している。入試においては、多様な人材を確保するため、様々な選抜方法を設定している。総合型選抜においては、面談時に保育技能の実践を課し、教職への意欲の高い学生を受け入れる工夫をしている。また、全ての合格者には入学前課題を課しているが、担当教員が授業などを通してフィードバックすることで、学修意欲の維持、向上につなげるよう大学教育への円滑な接続を図っている。

その他、大学のHPにおいて、教員養成の目標や教育計画、組織体制など、教職課程に関する情報の公開や教員養成の取り組みに関する記事などを掲載し、本学科の教員養成への熱意を伝えている。

卒業認定・学位授与の方針（DP）では、幼児教育・保育に関する知識や技能の修得や課題解決に向けた取り組み、他者との協働力、専門職としての地域貢献などを掲げており、それを踏まえた教育課程編成・実施の方針（CP）では、教職課程カリキュラムに加え、「表現・音楽コース」と「心理・環境コース」の2コースを設け、個々の学生の関心を尊重し、支援するためのカリキュラムを編成している。

学生の育成に関しては、「幼稚園教育実習に関する履修内規」を制定し、授業科目の出席状況や授業態度、GPA 等の実習参加資格基準を定め、学生に一定の学力等を求めている。また、学生に対して、保育者としての資質能力（学修成果）に関する自己評価を各semesterでおこない、学生自身が学びを確認できるシステムを設けている。こうした学生の適性や資質を考慮した教職指導により、本学科では9割以上の学生が教員免許を取得し、幼保専門職業人として就職する。この実績が示すように、教職を担うべき適切な人材を確保し、適正な教員養成をおこなっている。

〔長所・特色〕

本学科では、入試合格者対象の入学前教育において、提出型の課題を設けて、入学後にも、教職に必要な知識を問うフォローアップテストを実施している。特に令和3年度からは、絵本研究の一環で「子どもたちに読みたい絵本」といった専門的課題も課しており、これらの取り組みに対して各講義でフィードバックすることで、保育者としての意識の涵養を図っている。音楽教員によるプレピアノ講座は高校1・2年生も対象に企画しており、早期から

の保育・教職への関心を高める機会を担うと共に、ピアノ初学者の入学後のスムーズな学びへとつなげている。また、高校との連携事業においても、本学の講義に高校生も参加できる仕組みを作ることで、教職のあり方についていち早くふれる環境を作っている。

入試選抜では様々な方法を設定しており、特に総合型選抜試験においては、個人面接だけでなく絵本の読み聞かせの場を設けている。評価の一環ではあるが、受験者にとっても、教職に必要な表現技術について認識し、入学後の目標を確認できる場となっている。

その他の特色としては、入学時には、保育者を学生としてのマナー（10の約束）を周知し、 Semester末や実習直前などに自己評価する仕組みを作っており、学生自身が日常的に意識できるよう工夫している。また、担任制とチューター制を複合的に組み合わせることで、より多角的で個々に応じた支援を提供することが可能となっている。初年次教育およびキャリア教育の科目内において、自分を見つめ、現場の声を実際に聞きながら自分の適性を知り、教職への関心をより高める機会や内容を用意している。

〔取り組み上の課題〕

ここ数年、学修意欲の低下により免許や資格の取得を断念する学生が見受けられるようになってきた。そこには様々な理由が挙げられるが、入学後の学修意欲の低下を防ぐため、保育の魅力ややりがいなどを日頃から学生に伝え、学修意欲の維持、向上を図る必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：西九州大学短期大学部幼児保育学科「3つのポリシー」
https://www.nisikyu-u.ac.jp/nagahara/info/pdf/j_collage03.pdf
- ・資料2-1-2：西九州大学短期大学部パンフレット
- ・資料2-1-3：西九州大学短期大学部学生募集要項
- ・資料2-1-4：西九州大学短期大学部教職課程について
https://www.nisikyu-.ac.jp/junior_college/information/detail/i/1048/faculty/101/
- ・資料2-1-5：西九州大学短期大学部幼稚園教育実習に関する履修内規
- ・資料2-1-6：入学教前教育の案内
- ・資料2-1-7：プレピアノ講座の案内
- ・資料2-1-8：保育者を学生としてのマナー（10の約束）
- ・資料2-1-9：キャンパスライフハンドブック（学生生活）

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

西九州大学短期大学部幼児保育学科では、入学後のよりスムーズな学修に繋げるため、合

格者全員を対象に入学前教育を実施している。ここでは、保育者として身に付けておきたい用語や一般知識の他、保育に関連する調べ学習を取り入れることで、保育職への意欲や意識づけをおこなっている。入学後は、新入生ガイダンスにおいて保育者としてめざすべき姿を学生に提示することで、より具体的な意識づけを図っている。具体的には、①保育者としての素養（態度・志向性）②子どもを理解し指導・援助する力（知識・理解）③保育を展開し評価する力（技能・表現）④連携・協働する力（行動・経験・創造的思考）の4点であり、学科独自の専門的能力要素に関する学修到達目標（学修成果）でもある。そして、学生は Semester毎に学習成果の獲得状況について自己分析を重ねていき、教員もそのデータを活用しながら、保育者としてのキャリアアップを支援している。個々の学生のニーズや適性に応じた支援をおこなうため、担任とチューターに加えて、実習担当教員、ゼミ担当教員、学生支援課職員とも連携を図りながら、組織的な情報提供や支援をおこなっている。場合によっては、保護者にも協力を仰ぎながら、教員免許状や保育士資格の取得に向けてサポートをしている。

事務局学生支援課では公務員試験や就職志望先に係る資料を常に自由に閲覧できるスペースを隣接させ、学生からの要望があればキャリアコンサルティングをおこなっている。常に最新の進路状況を掌握すると共に、学科との連携を図りながら求人や就職関係情報の整理と公開、事務局窓口での相談や提出書類の添削など、大学全体のキャリア支援、進路指導を統括している。進路決定状況については会議で報告し、全教員で状況を共有し、支援につないでいる。

また、初年次教育およびキャリア教育の科目においても、就職適性検査やマナー講座、メイクアップ講座の実施、就職活動の実際に関する情報提供や履歴書および面接の指導をおこなっている。キャリア支援の観点から、「保育・教職実践実習（幼）」や「教育実習指導」などの教職課程科目においても、本学の卒業生や現職の幼稚園教諭・保育士等との連携を図り、実践事例にもとづいた授業内容を展開し、キャリアへの動機づけ向上につなげている。

また、卒業生に対する追跡調査もおこない、本学の取り組みの成果や課題点を評価する資料として活用している。

〔長所・特色〕

幼児保育学科では、基本的に全学生が保育士資格、幼稚園教諭二種免許を取得することを目指し、キャリア支援の充実に努めている。教職員による組織的な支援に加えて、学生同士（1年生と2年生）による交流や学び合いを活用している点が特色としてあげられる。例えば、実習を前にした指導案や日誌の書き方に関する情報交換、就職を前にした模擬面接によるシミュレーション等、2年生が個々の体験をもとに具体的なアドバイスをおこなうことで1年生、2年生双方のキャリアアップが図られている。

また、公務員就職希望の学生のために、学科独自の公務員試験対策講座を開催している。無料で受講できることもあり、学生からは好評を得ている。

〔取り組み上の課題〕

これまでの学内におけるキャリア支援にとどまらず、実習や授業、就職などの局面で保育現場、行政と協力・連携することが課題である。養成校の卒業生に関する令和元年度の調査研究では、卒業して一般職に就いた学生の約4割は、その理由として、「実習で保育をすることに自信を持てなかったから」と回答している。本学科では、入学後の早い時期に保育現場での実習をおこなっている。キャリア支援の観点から、保育の難しさや保育者として困難なことに対峙したときに、どのように乗り越えていくのかなど、保育現場と連携をしながら、学生のキャリア形成をサポートしていくことが必要である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料2-2-1：入学前教育の案内文
- ・資料2-2-2：学生支援課のキャリア支援に関する資料
- ・資料2-2-3：令和元年度卒業生に対する追跡調査
- ・資料2-2-4：キャンパスライフハンドブック（幼児保育学科の履修手引き）
- ・資料2-2-5：令和元年度子ども・子育て支援推進調査研究事業（厚生労働省）「指定保育士養成施設卒業者の内定先等に関する調査研究」

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

西九州大学短期大学部幼児保育学科は、保育者（幼稚園教諭、保育士）の養成を主たる目的としている。その教育課程は、定められた学修到達目標に沿って実施され、学修成果が測定されている。本学の学習成果は、建学の精神および教育目標の具体的な到達目標として学科の学修到達目標を定め、建学の精神を具現化するものとなっている。

学生の適切な学習量の確保と単位の実質化を図るため、「西九州大学短期大学部授業科目の履修登録単位数の上限に関する内規」を設け、原則年間 50 単位を上限とするキャップ制が敷かれている。ただし、学科が設置する主たる資格・免許（幼稚園教諭二種免許状、保育士など）の取得を希望する場合、修学指導を必要としない学生の履修については、その限りではない。

教職課程カリキュラムは、コアカリキュラムを踏まえて編成している。また、施行規則より多く履修させる編成となっている。具体的には、領域及び保育内容の指導法に関する科目は施行規則では 12 単位となっているが、21 単位を設定している。教育の基礎的理解に関する科目等は、施行規則では 6 単位となっているが 8 単位を設定している。さらに大学が独自に設定する科目として、音楽系科目 3 単位が設定されている。

教職課程のカリキュラムの編成・実施にあたっては、理論中心の授業科目と、現場での体験や実習における実践的な科目を相互に往き来し、学びを深めていく「理論と実践の往還」を重視した科目配置をしている。履修者に対して、学修の段階や順序等をわかりやすく示すことを目的に履修系統図及び科目ナンバリングを作成し、「キャンパスライフハンドブック」において公開、履修ガイダンス等の機会に周知している。また、教職課程を履修している学生は定期的に、教員育成指標を踏まえて作成された学習成果の評価指標（ルーブリック評価）を用いて、これまでの学びや実践を省察し、自身の教師としての総合的な資質能力が高められるようにしている。

今日の学校に求められる ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育に対応するため、数理・データサイエンス・AI に関する基礎的素養を身につける「データサイエンスの基礎（共通教育科目）」を必修としている。さらに、情報機器に関する科目、保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用不を含む）に関する科目、教育の方法と技術（情報機器及び教材の活用不を含む）に関する科目のなかで ICT の利活用に関して適切な指導がおこなわれている。

アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）やグループワーク等については、とくに幼稚園教職課程における保育内容演習において、保育の実践現場に即した模擬授業やグループ活動等を展開するようにしている。各教員は、実践現場のなかでのケーススタディをとおして、学生主体の授業となるように留意している。また、子どもに対する具体的な対

応や考え方に関するディスカッションを展開するようにしている。

教職課程シラバスは、各科目の学修内容や評価方法等を含めて大学ホームページ上の「教育・研究リソース検索システム」にて公開している。各科目の教員においては、教務委員会によるシラバス要領にしたがって、コアカリキュラムに対応したシラバスを作成するように周知徹底されている。作成されたシラバスは、各学科による教務委員によるチェックがおこなわれている。また、情報公開のみではなく、各教員による授業のオリエンテーションにてシラバスに記載されている学修内容や評価方法についても説明するようにしている。

教育実習をおこなう上で必要な履修要件は、「西九州大学短期大学部幼稚園教育実習に関する履修内規」において明記されている。教育実習を履修する資格として、教職科目についての3分の2以上の出席、教育実習指導科目の履修、GDA値が1.4以上であること等が定められている。また、上記要件を満たしていても、生活や学修態度等の適格性が不十分と判断された場合は教育実習の履修が保留となるよう規定されている。

「教育・保育実践演習（幼）」を中心にして、履修カルテや学生ポートフォリオを用いた教職指導をおこなっている。Semester毎に成績評価にもとづき、教職に必要な資質能力（学修成果）の評価をおこない、学生の学修状況を把握に努めている。そのうえで、「教育・保育実践演習（幼）」におけるグループ討議やロールプレイ等をとおして、教職課程における学習内容の振り返りとフィードバックをおこないながら、学生の資質能力を確認している。

〔長所・特色〕

大学および学科の教育上の目的・目標、教職課程コアカリキュラムを踏まえ、履修する学生の資質能力を考慮しながら、「理論と実践の往還」を重視したカリキュラム編成をしている。さらに、データサイエンス・AIやSDGsなど学校を取り巻く社会の新たな課題に対応するため、教職課程と連動したプログラムが用意されている。また、学生や学外の参画を得ながら、教育の適切性にかかる意見交換会を実施し、学生や現場のニーズを考慮した教職課程カリキュラムの編成・実施をおこなっている。

本学においては、昨今のコロナ禍における遠隔（オンライン）授業においても、アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）やグループワークを展開できるように工夫を削っている。具体的には、FD研修をとおして、各教員の授業において、相互にいかん遠隔（オンライン）授業を実践しているのかを公表し、アクティブラーニング実施のスキルや授業展開を学び合うようにしている。

〔取り組み上の課題〕

「履修カルテ」の作成と本学が独自に実施している「学修成果の評価」の連結が課題となる。「学修成果の評価」においては、学生の資質能力について「態度・指向性」「知識・理解」「技能・表現」「行動・経験・創造的思考力」の側面から、教員による評価と学生の自己評

価を組み合わせで評価をしている。そのため、学修成果の獲得状況に関するデータを「履修カルテ」に連結し反映させることで、より学生の学びと成長の軌跡を具体化できると考えられる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：西九州大学短期大学部授業科目の履修登録単位数の上限に関する内規
- ・資料3-1-2：キャンパスライフハンドブック（教職課程について）
- ・資料3-1-3：キャンパスライフハンドブック（幼児保育学科の履修手引き）
- ・資料3-1-4：西九州短期大学部幼稚園教育実習に関する履修内規
- ・資料3-1-4：西九州大学教育・研究リソース検索システム
- ・資料3-1-5：数理・データサイエンス・AI教育プログラムの資料
- ・資料3-1-5：令和4年度「幼児保育学科の教育に関する意見交換会」議事録

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

教育実習は、大学と現場が連携して実践的教育をおこなうための貴重な機会である。そのため、幼児保育学科では、マナーや心構えを含めて基礎から応用へ段階的な実習内容となるよう、附属幼稚園や県内の協力園と連携して、実習を運営している。

1年次6月に附属幼稚園にて観察・参加を中心とした実習「教育実習Ⅰ（前半）」5日間をおこなっている。入学後早期に実習をおこなうことで、保育の職業理解、短期大学における授業の理解促進が図れるよう尽力している。1年次11月には同附属幼稚園にて研究保育を含む「教育実習Ⅰ（後半）」5日間を実施している。実習前には実習指導の授業の一環として、附属園の指導教諭と連携しながら、指導案作成の個別指導や模擬保育の実施など、学生の実践力向上のための取り組みをおこなっている。

附属幼稚園での実習で保育実践の基礎を身につけたうえで、2年次10月に「教育実習Ⅱ」を実施している。佐賀県内の私立幼稚園・認定こども園18ヵ園に実習協力園として承諾をいただき、本学科と連携しながら、学生の実践的指導力を育成にあたっている。実習期間中は学科専任教員が実習園へ巡回をおこない、直に学生にフィードバックをおこなっているだけでなく、実習事後指導の資料として活用するため、「巡回指導報告書」を学生一人ひとりに対し記入している。また、特に指導が必要だと思われる学生に対しては実習担当専任教員が、実習園の指導担当者と連携を取りながらフォローアップを進めている。

また、様々な体験活動をとおして、地域の子どもや教育・保育について学生が理解する機会を設けている。学内での子育て支援活動や障害児の余暇活動支援、ゼミでの地域貢献活動やフィールドワーク、附属幼稚園・保育園でのボランティア、現職保育者による講義や演習

などをとおして、地域の子どもの実態や学校園における実践について理解を深めている。

〔長所・特色〕

幼児保育学科は、佐賀県内の保育者養成において、長年の歴史と実績を誇っている。教育実習や体験活動など学生の実践的指導力の育成に協力的な学校や園が多く、各種の取り組みをスムーズに進めることが出来ている。現場と養成校が連携・協力して保育者養成する体制構築を目指して、佐賀県私立幼稚園・認定こども園連合会主催の「教員・保育士養成校と佐賀県私立幼稚園・認定こども園の設置者・園長等との合同協議会」に学科専任教員が参加し、保育者養成における現状と課題等について共有・意見交換を実施している。また、幼児保育学科の教育内容や学修成果に関する情報について、学外の教育・保育関係者と意見交換会を開催し、その結果に応じて実践的な養成教育への見直しをおこなっている。

〔取り組み上の課題〕

学生にとって最初の実習を附属幼稚園で実施しており、毎年事前の打ち合わせを主幹教諭と実習担当専任教員で実施している。互いの指導内容について大部分は共通理解ができているものの、一部では両者の間にずれが生じている点が課題である。相互理解をさらに深めるため、附属幼稚園と継続的に協議を重ねる場が求められる。特に、学生が初めて経験する実習であることに鑑みると、主幹教諭はもちろんであるが、クラス担任など直接学生指導を担当する教諭にも同席いただき、実習における実践的教育の在り方について共通理解を図っていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：西九州大学短期大学部パンフレット
- ・資料3-2-2：令和4年度卒業課題研究抄録集
- ・資料3-2-3：「教員・保育士養成校と佐賀県私立幼稚園・認定こども園の設置者・園長等との合同協議会」資料
- ・資料3-2-4：令和4年度「幼児保育学科の教育に関する意見交換会」議事録

Ⅲ. 総合評価

基準領域1「教職課程教育に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」においては、卒業認定・学位授与の方針(DP)を踏まえて、教職課程を通して育む資質能力を示した学修成果を設定し、その可視化を図っている。具体的に提示された学修成果は、教職志望学生および関係教職員にとって目指すべき具体的な教師像として共有されている。教職課程の実施においては、教職課程委員会と幼児保育学科を中心に、教務委員会、FD委員会が緊密に連携することで人材養成の質を保持する体制を整え、教育改善に努めている。

基準領域2「学生の確保・育成・キャリア支援」においては、入学者受け入れの方針(AP)にもとづく多様な選抜方法を実施し、教職への意欲が高い学生を受け入れる工夫をしている。学生の育成に関しては、「幼稚園教育実習に関する履修内規」を設定し、一定の学力その他の質の確保に努めている。キャリア支援においては、入学前教育、初年次教育およびキャリア教育科目、教職科目を通して、学生の学修意欲の維持・向上を図りつつ、キャリア意識の醸成に努めている。その一方で、数名ではあるが、教員免許の取得を断念する学生や幼児教育分野以外への就職を希望する学生がいることは課題の1つである。これまで以上に関係教職員が連携し、学生のニーズに応じた情報提供や組織的な支援をおこなう必要がある。

基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」においては、理論と実践の往還を重視した系統的なカリキュラムが編成されている。また、Society5.0時代の到来に対応すべく、数理・データサイエンス・AIの素養やICT機器の活用能力の向上に対応した科目を開講し、教育現場のDX化において有用な人材を輩出できるよう、教職課程を含むカリキュラム全体を通して対応している。『履修カルテ』と本学独自の「学修成果の評価」の連結が課題であり、学生の履修状況に応じたより細やかな教職指導の実現に向けて継続検討していく必要がある。実践的指導力の育成においては、教育実習指導をはじめとする教職科目において、段階的で丁寧な指導をおこなっている。教育実習に加えて、地域貢献活動やフィールドワーク、ボランティア等において地域の人々や機関と連携する機会を豊富に用意し、実践的指導力育成を促進することが今後の課題である。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本報告書は、本学教職課程委員会・幼児保育学科・事務局教務課が中心となり、3者間で連携・協働しながら作成にあたった。作成の大まかなプロセスは以下のとおりである。

- 令和4年4月20日（水）
自己点検・評価に関する情報共有と実施の決定、学科への周知・連絡
（第1回教職課程委員会）
- 令和4年8月11日（木）
教職課程の学生へのヒアリングの実施
（令和4年度幼児保育学科の教育に関する学生との意見交換会）
- 令和4年9月1日（木）
自己点検・評価の実施方針と手順の検討、第1回教職課程FD研修会の内容を検討
（第3回教職課程委員会）
- 令和4年9月14日（水）
近年の教員養成の動向理解、自己点検・評価の目的と実施手順・担当について最終確認
（第1回教職課程FD研修会）
- 令和4年9月
教務課によるデータ収集と学科への提供
- 令和4年10月～12月
試案の作成
- 令和4年12月12日（月）
地域の学校園へのヒアリング
（令和4年度幼児保育学科の教育に関する学外との意見交換会）
- 令和5年1月
試案原稿の集約・点検・再編集
- 令和5年2月22日（水）
自己点検評価委員会への経過報告と意見聴取
（西九州大学短期大学部 第12回企画委員会、第3回点検・評価運営委員会合同会議）
- 令和5年3月1日（水）
教授会報告（令和4年度 第12回 3月定例教授会）
- 令和5年3月
最終原稿の作成
- 令和5年3月23日（木）
最終原稿の提出と協議による確定
（第4回教職課程委員会 メール会議）
- 令和5年3月31日（金）HP掲載

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名					
学校法人 永原学園					
大学名					
西九州大学短期大学部					
学科・コース名					
幼児保育学科					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
昨年度卒業生数					90
①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					88
①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					88
②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					35
④のうち、正規採用者数					34
④のうち、臨時的任用者数					1
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	3	3	5	0	0
相談員・支援員など専門職員数 1 (総合研究室助手)					

V 現況基礎データ一覧

令和3年5月1日現在

法人名					
学校法人 永原学園					
大学名					
西九州大学短期大学部					
学科・コース名					
幼児保育学科					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
昨年度卒業生数					84
①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					81
①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					80
②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					36
④のうち、正規採用者数					32
④のうち、臨時的任用者数					4
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	3	1	5	0	0
相談員・支援員など専門職員数 1 (総合研究室助手)					